

思考力・判断力・表現力を育む日本語指導 ～言語活動の充実を通して～

I 研究の内容

日本語教育部会では、長年「言語力」をつけるための研究を行ってきた。今年度は、今まで積み上げてきたものの上に、さらに新教育課程を見据えた内容を加味した研究を行うことができた。

IT化している現代社会の中、子どもたちは幼いころからパソコンや携帯電話などの機器に囲まれた中で成長してきた。中学生の携帯電話の普及率も増えるばかりである。簡単に活字が打て、軽い気持ちでメールを送信する。その中で、ともすると、相手を思いやることのない自分本位な考え方をもったり、相手に自分の気持ちを言葉で伝えることが困難になり、人間関係が希薄になってしまうこともある。したがって、正しい言語を使って、他の人に自分の意見や気持ちを正確に伝える力を育む必要がある。

日本語教育部会は、小学校・中学校の二部会に分かれての研究体制を取っているが、『言語力を高める』という共通したテーマで研究を行っているため、学習会や、1月の公開授業の指導案検討や当日の参観、事後の研究などをいっしょに行った。学習会では、光村図書の編集長である山本さんに来ていただき、来年度の新教育課程に基づく新しい教科書の構成や、編集する際の工夫した内容を細かく説明していただいた。特に、小学校と中学校の学習内容を、どのようにつなげたかもお話ししていただき、9年間を見通した国語の力をどうつけていくかという流れを意識することができた。

9月と1月に行われた公開授業研究では、事前の授業案づくりを部会全員で時間をかけて検討した。授業後には、授業者の反省や研究協議が活発に行われ、特に1月には、小学校中学校両方の立場からの意見や感想をいただき、小中学校とつながりのある研究ができた。

II 成果と課題

1 山梨北中学校 宮澤梨歌先生の実践「写真の紹介文を書こう～比喩や慣用句の言い回しを理解し、文章の中に効果的に生かす力～」について

3年生を対象に、「書くこと」と「言語文化と国語の特質」の力をつける授業が行われた。2年生のときに、「比喩法」について学び、3年になってからは、「故郷」などの小説を通して、さまざまな表現方法を学んでいる。ここでは、生徒の興味関心を考え、導入に写真を使用して既習の内容も思い出させながら、他の人にわかりやすい表現で作文するといった内容であった。200字という、生徒に負担のない長さで書かせたのも効果的であった。

写真の例に少々問題はあったが、生徒たちは視覚に訴える魅力的な写真に興味をもち、さまざまな表現を考え出した。生徒の文の中には「様態」を表す「ようだ」「ような」も含まれており、「比喩」と「様態」を区別する学習にもつながった。生徒たちは、他の者が考えた比喩を聞くことで、さまざまな比喩があることを意識できた。授業の雰囲気は明るく発言しやすい感じだった。静かに集中するところはしっかりできていてよい授業であった。

県教研において、授業者が比喩を言ってそれがどの写真にあたるか考えさせたり、机間巡視をしながら、みんなに聞かせたい比喩をその場で発表させるのも効果的であるという助言をいただいた。「比喩」は本来、状況をわかりやすくするために、まったく別のものに例えることであるという確認もされた。

2 塩山北中学校 天野綾美先生の実践「未来の案内文を書こうー書いた文章を読み合 って意見を述べ合おうー」～日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら目的に 応じて書く力～

1年生対象の授業であった。自分の未来を想定しながら、相手や目的に応じて、案内文の基本的な形式を学び、より魅力的な案内文を書こう、という授業であった。案内文に必要な行事名・日時・場所という一般的な内容に加え、個性的な内容を工夫し、その行事にぜひ参加したくなるような文や内容を工夫しなければならない。

予め、生徒それぞれの将来の「夢」やなりたい職業を調査し、その夢が達成できたことを想定して案内文を書く。その際、学校で配布される案内文や家に届くダイレクトメールを持ち寄り、内容を確認し合う授業も行っていた。

助言の先生方には、「指示がしっかりと通っていた」「班の中で司会者のリードが上手だった」「普段からの授業規律がしっかりとできているためよい授業となった」「教師が提示したテーマにけっこう近づいていた」「架空設定のおもしろさを感じた」「授業のテンポがよかった」「拡大機や電子黒板を使っただけの授業も工夫していきたい」「最初に書いたものと、最終的に書いたものを比べてみると効果的」などの意見・感想をいただいた。

この授業は、授業案検討の段階から小学校の先生方に参加していただいていたので、小学校との関連が常に意識でき、また小中とも、お互いのようすを知ることができたことは成果であった。

3 その他

- ・小学校・中学校で、共通のテーマで研究を深められたことは有意義であった。
- ・統一授業研が2回あったが、どちらも学期の始め（休み明け）の時期で、生徒も授業者も負担が大きかったが、工夫されたよい授業であった。
- ・授業案づくりや実際の公開授業を見て、子どもの立場に立った（子どもの実態に合った）教材づくりの大切さを実感した。
- ・日常的な授業規律の確立、また班活動を授業の中にどう仕組んでいくかが課題であることを、研究を通して感じた。

（部長 山下 栄子）